政務活動費項目別支出一覧表

会派名：公明党

支出年度	29年度	支出項目	調査研究費	
整理番号	支出年月日	金額(円)	内容	備考
1	H29. 1. 29	6,000円	出席者2名参加費	ﾈ) 図書館総合研究所
2	H29. 1. 29	57,340円	交通費	
3	H29. 1. 29	680円	交通費	
4				
合計		64,020円		

第５　取扱い基準各種様式
手引き様式第１

支　出　伝　票

会　派　名	公明党	代表者		経理責任者	
支出年度	29 年度	整理番号（項目別）	1		
支出項目	☑調査研究費　□研修費　□広報・広聴費 □要請・陳情等活動費　□会議費　□資料作成費 □資料購入費　□事務費　□人件費				
支出年月日	２９　年　１月　２９日				
支出金額	6,000 円				
支出先	(株) 図書館総合研究所				
支出内容	メディアの変化と図書館の役割。セミナー参加費２人				
備　考					

No.1801-356

領 収 書

精華町議会 公明党会派 様

金 3,000 円（消費税込み）

但し、セミナー参加費として
（メディアの変化と図書館の役割
平成 30 年 1 月 29 日開催）

平成 30 年 1 月 29 日

株式会社[redacted]合研究所
東京都文[redacted]目１番１号
代表[redacted]小澤 嘉謹

第５　取扱い基準各種様式
手引き様式第１

支　出　伝　票　　別紙

支出年度	29 年度	整理番号	1
領収書等貼付欄			

No.1801-355

領 収 書

精華町議会 公明党会派 様

金 3,000 円（消費税込み）

但し、セミナー参加費として
（メディアの変化と図書館の役割
平成 30 年 1 月 29 日開催）

平成 30 年 1 月 29 日

株式会社[redacted]研究所
東京都文京[redacted]1 番 1 号
代表[redacted]小澤 嘉謹

※按分がある場合は、備考欄に按分率を記入のこと。
重ねないで裏面をのり付けしてください。貼りきれないときは別紙に。

第５　取扱い基準各種様式
手引き様式第１

支　出　伝　票

会　派　名	公明党	代表者	印	経理責任者	印
支出年度	29 年度	整理番号（項目別）	2		
支出項目	☑調査研究費　□研修費　□広報・広聴費 □要請・陳情等活動費　□会議費　□資料作成費 □資料購入費　□事務費　□人件費				
支出年月日	２９　年　１月　２９日				
支出金額	57,340 円				
支出先	アル・プラザ木津店				
支出内容	セミナー参加費２人。祝園駅～東京駅の交通費				
備　考	工程表、会派研修報告添付　（旅行会社 手数料540円含む） 旅費計算書添付				
領収書等貼付欄					

領　収　証

№ 011446

精華町議会公明党会派 様
2018 年 1 月 23 日

¥ 57,340-

（上記の金額のうち消費税等 ✓ 円を含みます）
但し 研修会の交通費として。
上記金額正に領収致しました

収入印紙 日本政府 [redacted]

（ご注意）
金額を訂正したもの、発行者名のなきものは無効です。

取扱店 [redacted]
京都府木津川市相楽城西15番地
アル・プラザ木津店
ＴＥＬ(0774)71－5800

発行者 [redacted]

※按分がある場合は、備考欄に按分率を記入のこと。
重ねないで裏面をのり付けしてください。貼りきれないときは別紙に。

ご旅行計画書※

内海 様	東京 方面	人員			
		大人	小人	学生	合計
期間	2018/1/29	2			2

平和堂旅行センター アルプラザ木津営業所
〒619-0222
京都府木津川市相楽城西15番地
TEL 0774-71-5780
FAX 0774-71-5781
担当 [redacted]

日次	月／日(曜)	行程
1	1/29(月)	新祝園駅 8:22発 —近鉄 京都行急行— 京都駅 8:53着 9:18発 —JR新幹線 のぞみ4— 東京駅 11:33着 【到着後、東京駅にて昼食】
		東京駅 —東京メトロ 丸の内線・池袋行— 茗荷谷駅 みょうがたにえき —徒歩 (約1分)— 図書館流通センター (研修先)14時～17時 (帰り)→ —徒歩 (約1分)— 茗荷谷駅
		茗荷谷駅 —東京メトロ 丸の内線・池袋行— 東京駅 19:00発 —JR新幹線 のぞみ253— 京都駅 21:17着 21:31発 —近鉄 橿原神宮行急行— 新祝園駅 22:00着

※当日、運行状況により各鉄道発着時間が変更になることもございます。予めご了承下さいませ。

平和堂旅行センター国内旅行お申込書

カード No.	店名	担当者	申込方法	お申込日
	AP木津	[redacted]	TEL・来店	12/2

●太枠の部分をご記入下さい

キャンペーンのご案内
ご記入いただいたお客様の個人情報を、当社のキャンペーン等の旅行に関するご案内に利用させていただくことに同意します。
はい ・ いいえ

今回の旅行の目的
観光・ハネムーン・ビジネス
( ) 記念日・その他

ご旅行期間: 30年 1月29日(月)～ 30年 1月29日(月) / 日間

申込人数: 大人(男) / 大人(女) 2 / 小人(A) / 小人(B) / 幼児 / 合計人数

お名前(契約責任者): フリガナ ウツミ フクコ / 漢字 内海富久子 様
生年月日: 西暦 [redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日
ご出発時の年齢: [redacted] 才
性別: 男・女

自宅電話: 0774-73-2104
携帯電話: [redacted]
現住所: 〒619-0232 京都府相楽郡精華町桜が丘 3丁目27-22

同行者

	フリガナ	ご出発時の年齢	性別
2	様	才	男・女
3	様	才	男・女
4	様	才	男・女
5	様	才	男・女

パンフレット記載の注意事項及び旅行条件書には重要なご案内が記載されております。必ずお読みいただき内容をご理解いただきますようお願い申し上げます。

商品名 パンフレット名 P コース名 最少催行人員 (名) 受付番号
コース No. 催行状況 未定・確定

利用施設

月/日 (曜)	地区名	施設名	泊数	食事条件	夕食場所・内容	朝食場所・内容	お部屋について	たばこ
/ ( )			泊	無 朝 夕 朝				禁・無指定 喫・消臭対応
/ ( )			泊	無 朝 夕 朝				禁・無指定 喫・消臭対応
/ ( )			泊	無 朝 夕 朝				禁・無指定 喫・消臭対応
/ ( )			泊	無 朝 夕 朝				禁・無指定 喫・消臭対応

交通機関

月/日 (曜)	会社名・乗物名	発時間	区間	着時間	種別	たばこ	大人	小人	座席番号
1/29(月)	のぞみ4	09 18	京都 ～ 東京	11 33	指定	禁・喫・喫煙付近	2		
/ ( )			～		指定	禁・喫・喫煙付近			
/ ( )	のぞみ123	18 30	～ 京都	20 48	指定	禁・喫・喫煙付近			
/ ( )	253	19 00	～	21 17	指定	禁・喫・喫煙付近		2名掛け席	
1/29(月)	近鉄乗車券		新祝園 京都	(往復)	指定	禁・喫・喫煙付近	2		
/ ( )			～		指定	禁・喫・喫煙付近			
/ ( ) (乗)		(乗)	京都 ～ 東京						
/ ( ) (乗)			～						

<限定列車利用プランの場合>
指定列車に乗り遅れた場合は、特急券・乗車券共に無効になります。

※JR指定席は1ヶ月前発売となり、ご希望に添えない場合がございます。※飛行機の座席指定は制限があり、ご希望に添えない場合がございます。また、機材変更時には席が変わる場合もございます。

その他

月/日 (曜)	手配
/ ( )	
/ ( )	
/ ( )	

備考
精華町議会 公明党会派

●添い寝幼児様 施設使用料 不要・要 (才 円 食事含む・含まない) 現地にてお支払下さい。

ご旅行費用

(大 人)	27,420円× 2名
(近鉄)	980円× 2名
( )	円× 名
( )	円× 名
( )	円× 名
( )	円× 名
( )	円× 名
	円
取扱料金	540 円
ご旅行費用	¥55,380- 円
旅行条件書	¥57,340-

変更 / / / /

備考

2. お客様控

議長	
杉浦	西島

研2 常 受 30.2.-5 付 御嵩町議会

（委員会・会派）研修報告書

平成３０年２月５日報告

編纂種別	議　長	副議長	委員長	会派代表者		事務局長
議員研修（委員会・○会派）						

回　覧	
報告者	（公明党会派代表）　（氏名）内海　富久子　印
標　題	メディアの変化とこれからの公立図書館の役割
研修日時	自　平成３０年１月２９日（月曜日）午後２時００分から 至　平成３０年１月２９日（月曜日）午後５時３０分まで
研修場所	図書館流通センター（東京都文京区）
主　催	図書館総合研究所
参加者	内海　富久子・今方　晴美

内　　容

上記のとおり研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

○研修目的

・少子高齢化・人口減少、情報通信技術の進展など社会変化の中で、これからの公立図書館がどのような機能の充実、サービス向上をもって地域社会に貢献していくかを研鑽。

○日程・経費

別紙の通り

○研修内容

１、「今、ここからすべての場所へ-図書館のクオリア」

脳科学者　　茂木　健一郎氏

○図書館の意義

・子どもの地頭を育てる重要ポイント⇒様々の分野の本、多くの本を読む。

・世の中にいろいろの本があることを感じ、本の実在を実感できることが重要。

居場所づくり、コミュニケーション機能がある。

○ネット時代に本を持つ意味は。

・ツイッターやインターネット情報は断片的である。脳の栄養として、本は永続的影響を与えることから、子供にはたくさんの本を読むことが必要。

○図書館が必要とされる理由

・社会情勢が複雑化すればするほど、専門家の知識の必要性が求められる。

・図書館には「知のビックバン」がある。人工知能の発達は世の中に大きなインパクトをもたらすが、人工知能はビックデータがなければ機能しない、そのビックデータの評価関数を人間がきめる。

・世界はあらゆる分野の最先端の総合的な「知」が必要とされている中で、日本は教育、研究、社会制度が時代遅れ、イノベーションというところから程遠いという危機感がない。今ほど図書館が必要とされている時代はない。

○これからの図書館の行き方

♦図書館での情報のつくり込みが必要である。

・図書館で本を読む経験と電子書籍で読む経験との差は大きい。画面に映し出される情報は、身体的、臨場感、意味など大きな違いがある。

♦自らの機能を演出していく図書館の工夫

・貸し出し中心の機能は、今後その比重は落ちていく。

・認知症予防やコミュニティの再生につながるような、機能性が求められる。

○小・中学生に支持される図書館

・今の子供たちはデジタル化の中で育っている。

・世界的にも日本のアニメやゲームのクリエイティビティは高い評価され、新しい日本の文化が創り出されてきている。しかし、脳の栄養は偏っている、これまで大事にしてきた古典文学を若い世代に届ける手段を見出さなければ、新聞同様、図書館の未来はないことを懸念する。図書館関係者は図書館機能の充実をもっと試行錯誤するべき。

2、「デジタル化、ネットワーク化と図書館の可能性」　　湯浅　俊彦氏

図書館総合研究所が指定管理者となって、利用者視点に立った「図書館運営」や「ＩＣＴを活用した図書館サービスの向上」の様々な公立図書館の事例を紹介。大学授業で電子書籍を活用した実験成果に基づいた、図書館への電子書籍の現状と必要性。

○不親切な図書館(3 つの事例)

♦電子出版に対応しない図書館、

・議論において自治体の考え方＝PC 操作が苦手な人もいる、図書館は公共のものすべての人に配慮が不可欠である、図書館は資料の収集・保存・提供、レファレンスの充実を図ることが第一の役割である。

♦国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」に参加しない図書館

・2012 年著作権法が改正⇒絶版等資料の図書館等への自動公衆送信の提供が可能

・無料で 148 万点利用できる。・参加館＝878 館

♦図書館のルール（日本目録規則、日本十進分類法など）に固執する図書館

・利用率の高い所蔵資料の「図書の電子化」を⇒「待ち」から「攻め」の図書館像へ

の転換が必要。

・出版社の再生産活動を阻害しない程度に、出版社と図書館の連携をめざす図書館活動が重要。

〇三田市立図書館「音声で本検索、電子書籍サービス」の紹介

♦2014年4月指定管理に移行。従来の書籍と電子書籍ＩＣＴ活用の役割分担で、歴史・文化資料の電子化を進めている。

♦全国で初めて2016年4月、音声読み上げで電子書籍を検索できるサービスを導入。

・障害者差別解消法の施行で「合理的配慮」から環境整備する必要があった。

・デジタル絵本を活用した新たな児童サービスの実施。

・読み聞かせの話の幅が広がる(選択肢が広がる)。

・電子と紙の違い、それぞれの良さを楽しんでいる、競合ではなく共存。

・画面が大きく音声もあるため、子供の反応は良い。

〇利用者の情報行動の変化とこれからの図書館

・「図書館資料」の概念は、印刷資料や非印刷資料だけでなく、電子書籍などの電子資料あるいはネットワーク情報資源に拡大し、必ずしも「所蔵」を前提としない大きな転換期を迎えつつある。

・図書館においても「電子出版時代」にいかに対応するかが重要課題。

・図書館は常に実践的課題を探求し続けることが重要。

・図書館は地域の情報拠点＝地域活性化の中核的機能の役割を担う。

【所感】

・茂木　健一郎氏は、本を読むことが人間の脳へどのような影響があるのか、そして、「紙の本」を読むことは、心のふれあいや人と人のコミュニケーションなどの人間の機微を養う、ＡＩ(人口知能)がいくら進展しても超えられないという、しかし、メディアは常に変化し続けている中で、電子書籍も情報収集には必要不可欠で共存していくしかない。

・紙vs電子書籍、紙or電子書籍ではなく、紙and電子書籍でメリット、デメリットを理解して提供すれば良い。

・利用者の求めるニーズを的確に把握して図書館は地域の情報拠点として、魅力ある図書館であるべきである。電子図書・書籍の導入も、今後、検討していく必要性があると感じた。

・本町においても、まだまだ紙の優位性が高いと思われるが、これからの公立図書館のあり方を考えるとき、時代の流れの中で、電子書籍の導入も検討しICTを利用した利用者サービスが提供できるように進めるべきである。

・図書館は資料の収集、保存、提供、レファレンス業務を行うだけでなく、高齢者の認知症予防や住民の生涯学習の場、コミュニティ再生につながるような機能を持たせるべきである。

・全国の公立図書館を見ると民間のノウハウを活用しながら様々な利用者サービスの導入が行われている。本町においても、町立図書館の利用者は増加傾向にあるが、学研都市として、国立国会図書館とのさらなる連携や、企業誘致が進む中、住民だけでは

なく、誘致企業の従業員の方も図書館が利用できるよう、全国の先進事例にも目を向けながら、図書館のイノベーションが必要である。

○　研修参加者レポート
別紙の通り

○　研修先での入手資料等
添付資料あり。

別紙様式２

研　修　報　告　書

平成 30 年 2 月 3 日

公明党会派代表者
　　内海　富久子様

研修参加者
（氏名）今方　晴美

下記のとおり、研修に参加しましたので報告します。

記

１．研　修　先　名	
２．研 修 の 目 的	
３．研　修　内　容	
４．　所　感 （本町への応用等）	デジタル化、ネットワーク化と図書館の可能性 ○不親切な図書館として、電子出版に対応しない図書館、国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」に参加しない図書館、図書館のルール（日本目録規則、日本十進分類法など）に固執する図書館と３つの事例が紹介された。 大学における電子学術書の活用から分かったことは、所蔵資料のうちよく利用されている図書の電子化を出版社に要請するという、「待ち」から「攻め」の図書館像への転換が必要、出版社の再生産活動を阻害しない、出版社と図書館の連携をめざす図書館活動が重要、そのためには、いいシステムが出来れば契約するのではなく、様々なビジネスモデルを考え、いいシステムを作るという発想が必要と言う。 紙 vs 電子書籍、紙 or 電子書籍ではなく、紙 and 電子書籍で良い面、悪い面を理解して提供すれば良いとのこと。 本町においても、まだまだ紙の優位性が高いと思われるが、これからの公立図書館のあり方を考えるとき、時代の流れの中で、電子書籍の導入も検討し ICT を利用した利用者サービスが提供できるように進めるべきである。 また、図書館は資料の収集、保存、提供、レファレンス業務

	を行うだけでなく、高齢者の認知症予防や住民の生涯学習の場、コミュニティ再生につながるような機能を持たせるべきである。今、全国の公立図書館を見ると民間のノウハウを活用しながら様々な利用者サービスの導入が行われている。本町においても、町立図書館の利用者は増加傾向にあるが、学研都市として、国立国会図書館とのさらなる連携や、企業誘致が進む中、住民だけではなく、誘致企業の従業員の方も図書館が利用できるよう、全国の先進事例にも目を向けながら、図書館のイノベーションが必要である。

TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」<シリーズ：Reinventing Libraries>

メディアの変化と図書館の役割

= 公立図書館は何をもって自らの妥当性を主張するか =

図書館総合研究所

【講師】 茂木健一郎　脳科学者

湯 浅 俊 彦　立命館大学 文学部・大学院文学研究科 教授

【進行】 14:00　開会

14:10-15:10　講義 「デジタル化、ネットワーク化と図書館の可能性」
<湯浅俊彦>

15:10-15:20　休憩

15:20-17:00　対論 「メディアの変化と図書館の役割」
<茂木健一郎×湯浅俊彦>

17:00　閉会

【日時】 2018年1月29日(月)14:00-17:00

【会場】 図書館流通センター本社ホール（東京都文京区大塚 3-1-1）

【資料】 1. デジタル化、ネットワーク化と図書館の可能性 <湯浅俊彦>

2. ジャパンナレッジを導入している法人一覧

【Talking Points】

メディアの変化と図書館の役割

= 公立図書館は何をもって自らの妥当性を主張するか =

少子高齢化・人口減少、情報通信技術と相互連関性の進展など、社会の重大な変化の中で、公立図書館には、地域社会における位置づけや役割、デジタル化への対応、スタッフのスキルアップ、利用者の固定化、そして予算の制約など、課題が山積しています。

当セミナー〈Reinventing Libraries シリーズ〉では、こうした状況下にある公立図書館をめぐって、「図書館」の枠組み自体をいかに再構築し、どのような機能、いかなるサービスをもって地域社会に貢献していくかを、さまざまな角度から探ってまいります。

今回は、茂木健一郎氏（脳科学者）と湯浅俊彦氏（立命館大学教授、メディア論）を講師に、メディアの変化とこれからの図書館の役割について、ディスカバリーサービスや電子納本制度の課題等を交えながら考えます。

【講師プロフィール】

茂木健一郎（もぎ・けんいちろう） 脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所上級研究員
東京大学理学部・法学部卒業、大学院理学系研究科修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学研究員を経て現職。「クオリア(感覚の持つ質感)」をキーワードに脳と心の関係を研究。作家、ブロードキャスター等としても幅広く活躍。著書に、『今、ここからすべての場所へ』(筑摩書房、第12回桑原武夫学芸賞)、『脳と仮想』(新潮社、第4回小林秀雄賞)、『脳を活かす勉強法』(PHP研究所)、『東京藝大物語』(講談社)等。

湯浅俊彦（ゆあさ・としひこ） 立命館大学文学部教授、同 大学院文学研究科教授
大阪市立大学大学院創造都市研究科修了、博士(創造都市)。夙川学院短期大学准教授等を経て現職。専門は文化情報学。デジタル環境下における出版メディアの変容と図書館の役割等を研究。日本出版学会副会長、日本ペンクラブ言論表現委員会副委員長。著書に、『大学生が考えたこれからの出版と図書館』『電子出版学 改訂3版』(以上出版メディアパル)、『日本の出版流通における書誌情報・物流情報のデジタル化とその歴史的意義』(ポット出版)等。

TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」
図書館づくりと図書館を通したまちづくりに貢献する図書館流通センター(TRC)グループでは、各界第一線で活躍する有識者の協力を得て、政策情報が行き交う共同研究の場「まちの課題を解決する図書館」を各種テーマ設定の下に開催しております。地域社会が、活発な政策議論、そして、ともに考え合うことへの信頼と希望を取り戻し、「探求の共同体」へと歩を進めていく一助となることを願っています。

TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」<シリーズ：Reinventing Libraries>

メディアの変化と図書館の役割

＝公立図書館は何をもって自らの妥当性を主張するか＝

図書館総合研究所

【Talking Points】

少子高齢化・人口減少、情報通信技術と相互連関性の進展など、社会の重大な変化の中で、公立図書館には、地域社会における位置づけや役割、デジタル化への対応、スタッフのスキルアップ、利用者の固定化、そして予算の制約など、課題が山積しています。

当セミナー〈Reinventing Libraries シリーズ〉では、こうした状況下にある公立図書館をめぐって、「図書館」の枠組み自体をいかに再構築し、どのような機能、いかなるサービスをもって地域社会に貢献していくかを、さまざまな角度から探ってまいります。

今回は、茂木健一郎氏（脳科学者）と湯浅俊彦氏（立命館大学教授、文化情報学）を講師に、メディアの変化とこれからの図書館の役割について、ディスカバリーサービスや電子納本制度の課題等を交えながら考えます。

【講　師】

茂木健一郎　脳科学者、ソニーコンピュータサイエンス研究所上級研究員
東京大学理学部・法学部卒業、大学院理学系研究科修了。理学博士。理化学研究所、ケンブリッジ大学研究員を経て現職。「クオリア(感覚の持つ質感)」をキーワードに脳と心の関係を研究。作家、ブロードキャスター等としても幅広く活躍。著書に、『今、ここからすべての場所へ』(筑摩書房、第１２回桑原武夫学芸賞)、『脳と仮想』(新潮社、第４回小林秀雄賞)、『脳を活かす勉強法』(PHP 研究所)、青春小説『東京藝大物語』(講談社)等。

湯浅俊彦　立命館大学文学部教授、同 大学院文学研究科教授
大阪市立大学大学院創造都市研究科修了、博士。夙川学院短期大学准教授等を経て現職。デジタル環境下の出版ビジネスと図書館を研究。日本出版学会副会長、日本ペンクラブ言論表現委員会副委員長。著書に、『大学生が考えたこれからの出版と図書館』『電子出版学入門 改訂３版』(以上、出版メディアパル)、『出版流通合理化構想の検証』『日本の出版流通における書誌情報・物流情報のデジタル化とその歴史的意義』(以上、ポット出版)等。

【日　時】 2018年1月29日(月)14:00－17:00

14:00-講演「デジタル化、ネットワーク化と図書館の可能性」　湯浅俊彦
15:30-対論「メディアの変化とこれからの図書館の役割」　茂木健一郎×湯浅俊彦

＊交通障害等やむを得ない事情により構成が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。

【会　場】 図書館流通センター本社 ホール(東京都文京区大塚 3-1-1)
＊JR 東京駅より東京メトロ丸の内線で約 10 分、「茗荷谷」駅より徒歩 1 分
https://www.trc.co.jp/company/location.html

【参加費】 お一人様 3,000 円(税込) 当日、会場受付で頂戴致します。

【お申込】 下欄「参加申込書」に必要事項をご記入の上、Fax でお申込ください。
＊定員60名。先着順に受付け、定員に達し次第、締め切ります。
＊お申込受付後、メールにて「出席票」をお届け致します。
＊お申込後、ご欠席となる場合には、事前に、下記まで、必ずご連絡ください。

【お問合せ】 TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」（担当：島 ）
〒112-8632 東京都文京区大塚 3-1-1 株式会社図書館総合研究所
Tel:03-3943-2221　Fax:03-3943-7058　URL: https://www.trc.co.jp/soken/

TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」は、図書館づくりと図書館を通したまちづくりに貢献する図書館流通センター(TRC)グループが開催している地域政策を中心とした情報交流・共同研究の場です。2015 年 3 月以来、東京、名古屋、大阪などで 50 数回開催し、自治体議員・職員の方々など、延べ約 2,500 名様にご参加いただいております。

『今、ここからすべての場所へ—図書館のクオリア』
茂木健一郎氏(脳科学者)の講演より

０．私は、図書館のファンで、ヘビーユーザーで、応援団です。

１．図書館の意義

１－１．子どもの地頭を育む

図書館の公的な意義を考える上で重要なポイントは子どもの地頭を育むこと。たくさんの本を読むと同時に、いろいろな分野の本をたくさん読むことが、大人も同様だが、子どもの地頭をつくる上では大事。その意味で、図書館の意義は大きい。

１－２．ジャンルの拡大と実在の実感

地頭を育む上では、ジャンルの拡大が不可欠。図書館で、「世の中にはいろいろな本がある」と感じることは、子どもにとって初めての「知の大海」との出会いを意味する。そこでは「Embodimemt 身体性」や「Tangible 触ることができること」、つまり、本の実在を実感できることが重要で、ここにも図書館の大きな意義がある。

２．図書館が必要とされる理由

２－１．知のビッグバン

なぜ、いま図書館が必要とされるのか。一つには、「知のビッグバン」がある。人工知能の発達は世の中に大きなインパクトをもたらす。我々が知っている制度や組織は、大学や図書館も含めて、跡形もなく変わっていくだろう。

２－２．人間の知の価値

そこで忘れてならないことは、人工知能はビッグデータがなければ機能しないこと、そして、評価関数がないと最適化できないが、それを決めるのは我々人間であるということだ。例えば、自動翻訳でも、自分の脳の中にその回路があるのと、外部にあるのとでは全く違う。脳の中にさまざまな知識や学識、経験があるということに代わる価値はない。社会が複雑性を増している中で、それなりの判断が求められる今日にあってはなおさらのことだ。

２－３．国難

世界はどんどん突っ走っている。日本は教育、研究、社会制度、どれをとっても時代遅れ、イノベーションの主戦場とは程遠いところで戦っている。安倍首相のいう「国難」は、まさにここにある。

２－４．Authors at Google が意味するもの

Google では Authors at Google という場をつくっている。「人間図書館」といって、あらゆる分野の Author を呼んで、さまざまな分野の最先端の話をしてもらっている。それほど総合的な知が必要とされているということだ。日本にはそうした危機感があるか。いまほど図書館が必要とされている時代はない。

3．電子書籍と紙の本

3－1．人とコミュニティに対する作用の違い

アメリカでは電子書籍から紙の本への回帰が起きている。紙の本には、線を引いたり、書き込んだり、その人の履歴が残る。「この本、面白かった」と貸したり、あげたりできる。その点、電子書籍はつまらない。急いで読むときには便利だが。電子書籍と紙の本では、人間の脳に対する作用がまったく違う。一人の人間に対する作用も、人々のコミュニティに対する作用も全く違う。この点は、認識しておく必要がある。

3－2．ネット時代に本がもつ意味

ツイッターやFacebookなどが拡大している。しかし、そこでの断片的な情報は、本に比べると情報の有機的な統合が不足している。脳への栄養として、本は永続的な影響を与える。それは、体系性をもって情報が提示されているからだ。ツイッターやインターネットの情報が断片的に入ってくる時代だからこそ、子どもたちにはたくさんの本を読んでもらいたい。

4．これからの図書館の行き方

4－1．共感を通して知を広げる

図書館の役割を考えるときに、漫画版の『君たちはどう生きるか』がベストセラーになっていることは示唆に富む。それは、啓蒙ではなく共感の物語にしたからだ。岩波文庫版の巻末、丸山真男の解説から染み出る啓蒙、上目線とは全く異なる世界だ。共感を通して、図書館から知を広げていかなければならない。

4－2．アクティブ・ラーニングをいかにサポートするか

日本のセンター試験は、それなりに勉強しないとできないレベルに設定されている。アメリカのSATは、情報処理のクリティカル・シンキングの質をみている。この差は大きい。

時代遅れの日本の教育にも、いよいよアクティブ・ラーニングが導入される。これは、いまの教育ではベスト・プラクティスだ。アクティブ・ラーニングや探求学習は、子どもが目を付けたことについて、深く掘り下げていくという学習だが、それには図書館が不可欠だ。だから、アクティブ・ラーニングが導入されたら、日本中の図書館に子どもたちがあふれかえる。それを、司書を中心にどうサポートできるかは、図書館にとって大きな課題だ。

4－3．図書館の中での経験の充実

ケンブリッジ大学留学中に目にした印象的な光景がある。ある学者が、図書館に来て、窓際の席についてすぐに仕事を始めた。朝一番なのに、その席にはうず高く資料が積まれていた。つまり、図書館の机には、自分がその図書館で借りた本やノートを置いたままにして構わないということ。日本では、毎朝、クリーンな状態で始まり、置きっ放しにしたら、片づけなさいと注意される。研究や調査のためなら、そのままにして帰った方が合理的だ。両者の間には、根本的な哲学の差を感じる。図書館関係者には、図書館の中での経験をどうしたら充実させることができるか、ぜひ考えてほしい。

４－４．図書館での情報のつくり込み

図書館で本を読む経験と、電子書籍で本を読む経験との差は大きい。スマホ画面で見るのと、映画館のスクリーンで見ることの違いといってもいい。画面に映し出される情報もあるが、身体性、アンビエンス（臨場感）、アフォーダンス（意味）なども含めて情報と捉えれば、両者の情報の間には大きな違いがある。それでは、図書館では情報のつくり込みがどれほどなされているか。日本の図書館にはまだまだ改善の余地がある。

４－５．自らの機能を演出していく図書館

これまで日本の図書館は貸出中心でやってきたが、この機能は、これから比重を落としていくだろう。むしろ、図書館のコミュニティとしての機能、イノベーションをインキュベーションする機能が重要で、これを演出していかなければ、図書館が有するポテンシャルは生かされない。ふと知らない図書館に入ってみても、何か新しい文化が生まれている、楽しいことが起こっているという感覚は得られない。制約が多すぎるためか。

４－６．図書館が担う公共性－①時代を超えたコミュニケーション

人口が減り、貸出への圧力が低下しても、図書館が違う意味での公共性を担うことは可能だ。その一つは、紙の本だからこそできる時代を超えたコミュニケーションだ。フェルマーの最終定理をめぐる逸話。フェルマーによる本の余白への書き込み（「$x^n+y^n=z^n$ となる自然数の組 (x, y, z) は存在しないことの証明を思いついたが、ここには書かない」）。それを、月日を隔ててワイルズが証明した。紙の本でなければ、時代を超えたコミュニケーションはできなかった。

４－７．図書館が担う公共性－②認知症予防とコミュニティ再生

脳科学者として、いま心配していることは、高齢化に伴う認知症の増加。認知症にならないためには、脳に負荷をかけることが大事。本を読むこと、特に新しいジャンルの本を読むことは、新規性が高いほど、脳の中で報酬系のドーパミンが分泌されて、脳の機能が強化され、認知症の予防になる。セレンディピティ、偶然の出会いは、図書館でなければできない。

地域の人が本を仲立ちに読書会をする、朗読会をする。そうした機能を図書館がもてれば、認知症の予防にもつながり、いま失われつつあるコミュニティの再生にもつながる。いまベストセラーになっている『君たちはどう生きるのか』は、かつてそれを読んだ人が今の世代に渡したい本として買っているという。本を挟んで世代を超えた対話ができれば、日本の図書館は極めて重要な公共的役割を果たすことができる。

５．小中学生に支持されなければ図書館は突然死する

５－１．大人の知らない世界

『青春ブタ野郎』、『ソードアート・オンライン』…わかりますか？　大人が知らない、想像のつかない世界がある。子どもたちは、自分たちが愛好しているものを話そうとはしない。小中校生の神様は、アニメのキャラクターだったり、声優だったりする。しかし、これは日本の希望でもある。世界的にみて、日本のアニメやゲームのクリエイティビティは高く評価されている。まったく新しい文化が日本に生まれ始めている。

５－２．いまの小中学生の票が得られなければ図書館に未来はない！

彼らにも評価すべき点は多いが、脳の栄養は偏っている。彼らが夢中になっている文化が、どれぐらい続くかはわからないが、これまでの世代が大事にしてきた古典は、長い生命を保っている。若い世代にとっても古典は大事だ。彼らに、いかに世界古典文学全集をもっていくか。直木賞、芥川賞、あるいは新聞も、若い世代にはまったく関係のない世界だから、大変難しい問題だ。しかし、彼らの票が得られなければ、図書館も、新聞同様、ある日、突然死することになる。どうやったら彼らの心に届けることができるのか。図書館関係者にも試行錯誤してほしい。

（了）

〔文責：図書館総合研究所〕

本稿は、2017年11月7日、パシフィコ横浜で開催されたTRCセミナー「まちの課題を解決する図書館]@図書館総合展『岐路に立つ図書館～3つの視点から進化の方向を探る』での茂木健一郎氏の講演『今、ここからすべての場所へ—図書館のクオリア』を、図書館総合研究所の文責で構成・編集したものです。

株式会社図書館総合研究所
TRCセミナー【まちの課題を解決する図書館】事務局

〒112-8632 東京都文京区大塚3-1-1
Tel.03-3943-2221　Fax.03-3943-7058
E-mail: shima.yasuyuki@mxh.trc.co.jp
URL https://www.trc.co.jp/soken/

第５　取扱い基準各種様式
手引き様式第１

支　出　伝　票

会　派　名	公明党	代表者		経理責任者	
支出年度	29 年度	整理番号（項目別）	3		
支出項目	☑調査研究費　□研修費　□広報・広聴費 □要請・陳情等活動費　□会議費　□資料作成費 □資料購入費　□事務費　□人件費				
支出年月日	２９　年　１月　２９日				
支出金額	680 円				
支出先	東京地下鉄(株)				
支出内容	東京駅～茗荷谷駅 往復 340 円×2 人				
備　考	工程表添付あり、旅費計算書添付。				

領収書等貼付欄

領収書

・ご利用ありがとうございます。
・この領収書は大切に保存してください。

お取引内容: きっぷ　¥340

上記金額を領収いたしました。

ご利用日付 2018年01月29日
時刻 11時46分

印紙税申告納付につき東京上野税務署承認済

伝票番号：77312
東京地下鉄株式会社
東京駅　券07発行

※按分がある場合は、備考欄に按分率を記入のこと。
重ねないで裏面をのり付けしてください。貼りきれないときは別紙に。

旅費計算書(交通費)

利用月日	出発地	到着地	交通機関		単価	人数	金額	領収書	備考
平成30年 1月 29日	新祝園	京都駅	鉄道・航空機・バス・他	運賃(片道・往復)・料金(特急・急行・指定)	980円	2	1,960円	○	2
平成30年 1月 29日	京都	東京	鉄道・航空機・バス・他	運賃(片道・往復)・料金(特急・急行・指定)	27,420円	2	54,840円	○	
平成30年 1月 29日	東京	茗荷谷	鉄道・航空機・バス・他	運賃(片道・往復)・料金(特急・急行・指定)	340円	2	680円	○	3 領収証1枚
平成 年 月 日			鉄道・航空機・バス・他	運賃(片道・往復)・料金(特急・急行・指定)					
平成 年 月 日			鉄道・航空機・バス・他	運賃(片道・往復)・料金(特急・急行・指定)					
平成 年 月 日			鉄道・航空機・バス・他	運賃(片道・往復)・料金(特急・急行・指定)					
平成 年 月 日			鉄道・航空機・バス・他	運賃(片道・往復)・料金(特急・急行・指定)					
平成 年 月 日			鉄道・航空機・バス・他	運賃(片道・往復)・料金(特急・急行・指定)					
交通費合計額					57,480円				